

年明けというのは毎年迎えますが、自身の人生において一つの節目でございます。人生において節目というのはそ

れぞれあります。年齢を重ねる誕生日、学校の入学や卒業、結婚その他様々あるかと思いまます。



『百尺竿頭進一步』 泰忍 弘  
あけましておめでとうございます  
本年もよろしくお願い致します

あけましておめでとうございます  
本年もよろしくお願ひ致します

本年もよろしくお願ひ致します

# 『百尺竿頭進一步』

「節目」という言葉を辞書で調べると「①竹や木の節のある所。②物事のくぎれ目。節。」

くのかんとうにいっぽをすすむ』という言葉があります。この言葉は、中国は唐代の

卷之三

◆編集・発行人◆  
近藤喜弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番10  
TEL 0258-32-2811

## インスタグラム

ご家族の皆さんまでご覧ください

僧侶の為だけの教えではありません。

皆さんも人生の中で様々な区切りをつけて満足することがあるかと思います。「ここま

てや「だから」「これだけ尽くしたから」当然何事も行つてきた過程と結果は大切です。ただそこで立ち止まり終わるのではなく、生きている限り、今日が一番新しい修行の日という気持ちが大切です。

成し遂げた人の言葉ではなく、人生を生き続ける人全てに対する言葉です。

立ち止まることなく更に一步を進むことにより新たな節ができる、自身の人生がより強く豊かになると同時に周りにいる人々の支えになるのでは無いでしょうか。

「百尺竿頭」というのは直訳すると三十メートルの竿の先ということで、「進一步」とは一歩を進むという事なので、何やら危険な意味になります。

分かり易く言うと修行を重ね、自身がその到達点に達したと思ったときにそこに安住しその場に執着するのではなく、そこから更に一步を踏み出す覚悟が必要である。といふことを。

この教えは決して修行する



安善寺魯田竹



なる」ことを、当初から計算に入れて町造りをしていました。真剣に町の将来を考え、庶民の幸福を願っていたのでした。それが、身近な町割りや町並みを歩いて実感するのです。町歩きをして堀直奇の心を実感してみましょう。堀直奇の心の実体験は町並みの探索から…。

- (2) 築城工事の現場  
長岡城の新築、城下町の町割、水堀となる川の築堤、そして「長岡渡し」の港湾整備と、諸工事に多くの人夫が携わりました。その工事現場の状況は一体どうだったのでしょうか。興味津々です。具体的に覗いてみましょう。幸いにして『温古の栄』に、その工事状況が掲載されていましたので、その一部分を紹介します。
1. 仕事…毎朝6時に始まり、夕方6時に終わる。
  2. 人足の休み…昼前2度。午後2度。版木で合図をする。
  3. 振る舞い…上がりに男は親椀にて、女は汁椀にて

酒1一杯。煮付け鰯を3本あて給う。

4. 扶持米…男は一日、黒米1升8合。菜代、錢5文。

女は黒米1升2合、菜代、錢3文。

当時としては申し分のない働き場所ではなかつたかと思

います。特に酒は祭事にしか飲めない貴重品でした。それを毎日飲めるなんて…、人夫

にとつてはまさに極楽ではなかつたかと思います。さらに女性にも男性同様、酒が振る舞われたのです。これには驚

きでした。鰯にしてもそうで

す。北海道でとれる鰯をどうやって手に入れていたのでしょうか。その貴重品をなんと毎日食べられるのですか

ら、嬉しいやら、有り難いやら。まれまた極楽気分ではありますか。

堀直奇という人々は、よほど心根の優しい人だつたんですね。いつも威張り散らして、肩を怒らせて歩くお役人さんは一味違つた殿様だつたことがよくわかります。

実は、こうした酒をはじめ物資の調達は、後に長岡の検査院

断となつた草間茂右衛門の粉骨碎身の懸命なる働きによるものでした。ご存じ、草間医院のご先祖です。

(3) 草間茂右衛門と妙徳院 (本庄廣次)

茂右衛門は上杉謙信の育ての親、執政として活躍し、「隠れた逸材」と謳われた本庄実乃の孫でした。御館の乱で柄尾城が落城するときに妙徳院 (本庄廣次) とともに落ち延び、各地を巡つたあと郷里、藏王堂に舞い戻つてきました。そしてたちまち財をなし、わずか20代で藏王堂の代官となりました。その手腕を買われて長岡城築城における現場の総監督に抜擢されたのです。



妙徳院廣次上人正善靈神碑 藏王安禪寺境内

は第109代 明正天皇 (女帝) となりました。

武士の家系から入内したの

は歴史上、妙徳院の娘、東福

門院和子のみであります。し

かも、その子供は明正天皇と

なる…。

長岡市は妙徳院や皇后の東福門院和子、そして明正天皇を生み出した日本で唯一の市

です。というのに、なぜ、こ

うした重大事を大切にしない

のでしょうか。不思議でなり

ません。というか、さみしい

かくして、堀直奇の目論ん

だ立派な城が完成しました。

そして、今日まで変わること

のない、碁盤の目の城下町も

誕生したのであります。まさに堀直奇は長岡の歴史にとつて忘れはがたき貴重な存在といえませんか。

元和4年 (1618)、堀直奇は長岡城と城下町の完成をみて、村上城に移封されました。欲をいえば、もう少し彼に任せたかつた…。彼の力によつて、長岡はどのような町になつたのか。惜しみて余りある移封でした。

彼が長岡を去ると同時に、総合設計事務所の安善寺も閉鎖されました。そしてまた、もとの静かな安善寺に戻つたのでした。長い間、ご苦労さまでした。いまから407年前のことであります。

かくして、堀直奇の目論ん

だ立派な城が完成しました。

そして、今日まで変わること

のない、碁盤の目の城下町も

誕生したのであります。まさ

に堀直奇は長岡の歴史にとつて忘れはがたき貴重な存在といえませんか。

元和4年 (1618)、堀直奇は長岡城と城下町の完成をみて、村上城に移封されました。欲をいえば、もう少し彼に任せたかつた…。彼の力によつて、長岡はどのような町になつたのか。惜しみて余りある移封でした。

彼が長岡を去ると同時に、総合設計事務所の安善寺も閉

鎖されました。そしてまた、もとの静かな安善寺に戻つたのでした。長い間、ご苦労さ

までした。いまから407年前のこと

のこと

## 【特集】

# 「食」

静岡県

可睡齋

小金山 泰玄

時が経つのは早いものです。  
私も後期高齢者の仲間入りになりました。

精進料理に縁をいただき半世紀が経ちました。御本山(總持寺)の典座を経て、現在静岡県可睡齋の典座を務めさせていただいております。

食事を作ることに携わり、皆様方に召し上がっていただきとの大切さを担つておりますが、昨日本の食事風景には目を見張るものがあります。食事を頂く姿勢、心得等大切なことが欠如している感じがします。

私達曹洞宗には道元禅師が示して下さった食事に対し厳しい教えがあります。食事を作る心得「典座教訓」、食事をいただく心得「赴粥飯法」です。

私達はこの教えを守りながら、すべての食材に気を配り、大切に扱います。一茎草も粗末にせず調理して捨てないこ

とです。私たちの命もこれに依つて生かされているのではないでしょうか。食事をいただく側も同じです。作つて下さった人の事を思い感謝していただく、自分が食べるのではなく、色々なすべての命をいただくのです。そうすれば身体も心も健康に養われていくのではないか。



可睡齋の精進料理

## 「典座」とは

「典座」：禅宗寺院において食事全般を司る責任者。総料理長。禅寺において大切なお役である六知事の一人。



喜びの心を持つて生活する  
喜いやりの心を持つて生きる

「老心」

何事にも惑わされず正しく生きる

「大心」

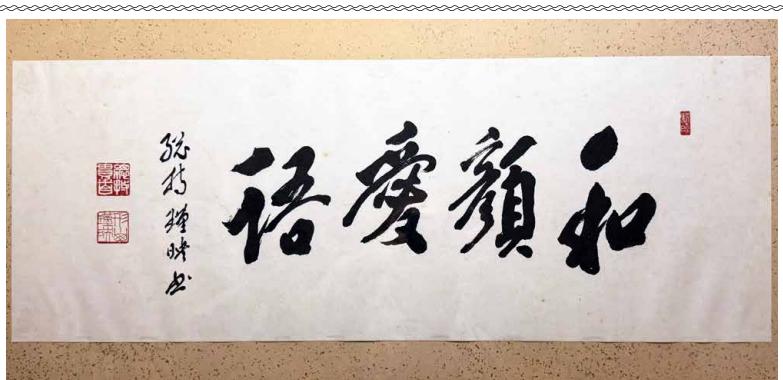


精進のおせち料理3段

シリーズ  
安善寺墨蹟紹介①

和頤愛語

秘傳 緋峰



揮毫

「和頤愛語」

乙川瑾映禪師

(明治三十五年～昭和五十七年)

和顔愛語とは、にこやかな表情と優しい言葉で人に接すること。相手を思いやる態度そのものが、周囲を和ませ、日常の一言が人の心を明るく照らすという教えです。



## 東堂和尚のつぶやき

「旧暦での正月、桃の節句等々。日本の季節にあつてゐる」



境内の落ち葉

方々から総仕上げをしていた

だき、境内の木々の一年が終

わります。俳句の季語に「山

眠る」がありますが、「境内

地の木々眠る」で来たる春に

そなえて静かに休んでいるか

のようです。

令和八年の正月を迎えた

た。今年も宜しくお願ひ申し

上げます。

昨年十二月二十二日の冬至

より僅か十日で正月。日の出

も遅く「迎春」「新春」とい

う。今年も宜しくお願ひ申し

上げます。

正月が一ヶ月くらい後だとよ

いのにと思ひます。日本では

十二月二日をもつて終了とな

る。しかし境内地の落ち葉はそのままにしておくわけにはいき掃除、一回の掃除でゴミ袋が何十袋にもなります。最後はシルバー人材センターの

安善寺の境内の木々も秋になると落葉樹は紅葉・黄葉が進み、晚秋から初冬には多くの落葉が始まります。一陣の風の落葉時雨は春の「花吹雪」に匹敵する程で、ついつい見とれてしまします。又、役目を終えて大地へと帰った落ち葉が作り出す光景にも違った趣深い美しさがあります。



新春飾り

日本古来の旧暦や「二十四節氣」では今でも立春、春分など季節を表わす言葉として用いられており、今年の立春は二月四日、桃の節句は四月十九日、端午の節句は六月十九日、お盆は八月二十五日、二十七日、中秋の名月は九月二十五日等々。こうしてみると現在の暦の約一ヶ月遅れの年中行事が日本の季節、文化に合つてゐるようと思われます。



二月十三日  
初月忌総代・世話  
人会  
二月十八日  
初月忌総代・世話  
人会  
二月十九日  
トトロ尼尊天初午大  
祭典

祝う地域が多く存在したそうです。令和八年の旧暦での正月は二月十七日です。

日本古来の旧暦や「二十四節氣」では今でも立春、春分など季節を表わす言葉として用いられており、今年の立春は二月四日、桃の節句は四月十九日、端午の節句は六月十九日、お盆は八月二十五日、二十七日、中秋の名月は九月二十五日等々。こうしてみると現在の暦の約一ヶ月遅れの年中行事が日本の季節、文化に合つてゐるよう思われます。

『寺行事予定』  
安善寺よろず掲示板

安善寺 庭園型樹木葬『翠緑の小径』

お盆に  
樹木葬墓地で  
御法要

どなたでも  
お参り  
いただけます  
お盆に  
樹木葬墓地で  
御法要

後醍醐天皇  
お代代供養墓  
お盆の御法要

最大3墓まで  
個別にお参り  
します

お盆の御法要  
お代代供養墓  
お盆の御法要

【お問合せ】 株式会社 放光  
フリーダイヤル 0120-811-112

安善寺 樹木葬墓地ご案内ページ  
<https://anzenji-jyumokusou.com/>

仏さまのおすそわけ  
数珠つなぎフードパントリー

~誰ひとり残されない世の中に！お寺を提供の場へ~

食材や日用品の提供にご協力ください！！

\* 詳細はお寺にお尋ねください\*

協力：新潟県フードバンク連絡協議



キャットタワーも冬仕様にや～ん！

庭の木々が色づいていたかと思つたらあつという間に丸裸になつてしまい、冬の寒さを一層強く感じさせられます。それでもスカスカになつた木々の間からは夏よりも遠くの景色が見られてそれはそれでワクワクするのです。

窓からぬくぬくと境内を眺めている私たちとは違い、家族は寒空の下、汗をかきなが

ら大量の落ち葉掃きに奮闘する毎日を送つていました。掃き掃除の中でも一番大変な木がイチョウだそうです。紅葉の時期、門前のイチョウは美しい黄色の絨毯を創り出してくれます。

しかし掃除となるとその実

が曲者らしいのです。久美さんはその実を見るたびに、何かの行持の際に檀家様に配



## 窓から見る境内の景色が大好きにや～ん！



ればいいなと考えているそです。  
イチョウの木は水分を多く含む木で難燃性と言わていて、防火に役立つためにお寺の境内にはよく植えられるそうです。安善寺では初午の際に火防のお札をお渡ししているので、その際に一緒に配れば：などと毎年考るだけでなかなか実行に移せない久美さんです。

『有言実行』、久美さんの代わりににゃんにゃん日記で書いたので今年こそ銀杏作りをしてもらいたいものです。まあ今の久美さんは真人君の受験が終わるまでは次のことを考えている余裕もなさそうです。私とビビの今年のやりたいことナンバー1は庭への脱走！と言いたいところだけれどとあります。外の世界をみたいニヤ～ん。

### お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。

**FAX 0258-32-2870**  
**〈原稿送付先〉メール [info@anzenji-nagaoka.com](mailto:info@anzenji-nagaoka.com)**  
**HP にも申込フォームがあります**

### 編集雑感

新年明けましておめでとうございます。本年も変わらずのご愛読を宜しくお願ひ申し上げます。

年が明けると軽快な足音を響かせての御馬の登場です。

丙午の年は火災が多い」などと考えられ六十年に一回の危険な年とされた時期もありました。早い話が日本の家屋は燃えやすいので特に戒めとして伝承されています。火の用心はいつも事です。

干支は丙午です。昔は丙午は余り良い年と言われておりました。昨年は九州で大火、香港でも大火と丙午でなくとも大火に見舞われました。丙は「炎のよう」燃え広がる火」午も「真夏の火」を意味するからです。火の力が重なる干支とされ、勢いの強さや激しさ情熱を象徴するといわれて来ました。かつては「力が強すぎて制御できない」

丙午となりました。午年は古くから成功や商売繁盛のシンボルとされており、活発でエネルギーッシュな年になると言われています。しかも今年は六十年に一度巡つて来る干支です。丙は炎のよう」燃え広がる火」であり「午」も真夏の火を意味します。

火の力が重なる干支とされ、勢いの強さや激しさ情熱を象徴すると言われて来ました。かつては「力が強すぎて制御できない」丙午の年は災害が多い」とされた時期もありました。現在はどうかと言えば、強国の大脅威や原子力の大脅威が言えます。いずれにしても、浮かれず自分を見失わず状況判断を確実に出来るように普段から備えなければなりません。

本年も皆様のご意見ご投稿お願いします。皆様の季刊誌応援宜しくお願い申しあげます。